

令和3年度 能美市立辰口中学校 学校評価 【前期】

| 重点目標 (めざす姿) | 具体的方策 | 主担当 | 【評価指標】 ＜成果指標＞＜努力指標＞ ＜満足度指標＞ | 【評価の根拠】 達成度判断基準 | 取り組みの成果 及び課題への対策 | 評価 |
|----------------|--------------|---|---|--|--|----|
| 1 | 組織的な学校運営 | ①情報共有を充実させ、主任等を中心とした同僚性・専門性を活かし研修・協働する中で、教員の資質能力の向上を図る。 | ＜成果指標＞ 主任層のリーダーシップのもと、各分掌と学年が縦横の連携を図り、教員が資質能力を高め、組織的な学校づくりを行う。 | ＜教職員アンケート1＞ 学校経営ビジョンを理解し、必要な情報を共有し連携を図り、一人一人が資質能力を高めて組織としての高まりを実感しているか。 | ＜教職員アンケート1＞ 96% 前年度12月より3ptアップした。学校経営ビジョンの具現化に向け、主任層のリーダーシップのもと、各分掌と学年の組織的な連携が十分に図られている。今後はより、学年間の連携を更に強化していく。 | A |
| | | ②「気づき」を大切に、常に改革・開発の意識でカリキュラム・マネジメントを充実させ、自身の働き方を見直し、多忙化改善の具体的な取り組みと標準化の工夫を図る。 | ＜努力指標＞ 見通しを持ち業務の改善・効率化を図り、勤務時間の短縮に努め、月2回定時退校している。 | ＜教職員アンケート2,3＞ 常に課題意識を持ち、周囲に伝えながらよりよい学校づくりに参画し、見通しを持ち効率的に業務を行い、勤務時間を短縮できたか。 | ＜教職員アンケート2＞ 100% ＜教職員アンケート3＞ 42% 学校運営参画は高い意識はあるものの、業務効率や定時退校は半数以下という結果であった。「帰りやすい職場環境の雰囲気づくりは進んだ」との声もあり、2学期は職員会議の書面提案といった更なる改善策を進める。 | D |
| | | ③安全対策や危機管理の意識と指導力を高め、いじめや不登校等に対し組織として計画的に未然防止に取り組むとともに対応を迅速に行う。 | ＜努力指標＞ 情報交換を密に行い、各主任や担任・学年が縦横の関係でいじめ・不登校に対し組織的に対応している。 | ＜教職員アンケート4＞ 情報の共有化が密にできており、いじめ・不登校傾向にある生徒に対し、未然防止や早期の適切な対応ができたか。 | ＜教職員アンケート4＞ 42% 教育相談の会と生徒指導の会を週に一度開催し、情報交換を行い状況を把握し、いじめ・不登校の未然防止や早期発見、早期対応に努めている。また、夏季休業中に教育相談についての対応方法や外部機関との連携等についての研修会を行った。 | D |
| 2 | 確かな学力の育成(知) | ①教科と総合的な学習の時間の学びを往還させ、「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業を展開する中で、授業をコーディネートする力を高め、GIGAスクール構想を意識した授業改善を図る。 | ＜努力指標＞ 各教科および総合的な学習の時間で、ICT機器を活用して生徒の思考を促す工夫を行い、まとめと振り返りを充実させ、主体的・対話的で深い学びを実現する。 | ＜教職員アンケート5,6＞ ＜生徒アンケート19＞ 生徒自身に、思考・判断し表現させることを積極的に行っているか。GIGAスクール構想を意識した取り組みができていくか。生徒が学びの高まりを実感しているか。 | ＜教職員アンケート5,6＞ 100% ＜生徒アンケート19＞ 93% 授業では、生徒が思考・判断し、表現する場面を意図的に作るよう心掛けた。また、GIGAスクール構想を意識した新たな授業づくりへの取り組みができていく。 | A |
| | | ②「授業の辰人スタイル」を身に付け、生徒の自ら学ぶ積極的な態度を育てるとともに、生徒全員が「わかる・できる」授業をめざす。 | ＜満足度指標＞ 「授業の辰人スタイル」を意識した授業を行い、場面を逃さず褒め、生徒全員が「わかる・できる」と実感できる授業を創る。 | ＜教職員アンケート7＞ ＜生徒アンケート17＞ 自ら学ぶ積極的な態度が身につく、授業がわかり、できるようになった実感があるか。 | ＜教職員アンケート7＞ 100% ＜生徒アンケート17＞ 85% 生徒アンケートは前年度から8ptアップした。教職員の指導と、生徒の学びのバランスが図られ、主体的に学習に励む学校全体の雰囲気構築されている。 | A |
| | | ③学びのPDCAを構築し、計画的、組織的に学力の検証と学びの改善を重ね、基礎的知識・技能の定着と、これらを活用する思考力・判断力・表現力を育成する。 | ＜成果指標＞ 学力向上ロードマップを活用し、基礎的知識・技能や思考力・判断力・表現力等の向上に努めている。 | ＜教職員アンケート8＞ PDCAサイクルを実施し、学力の検証・改善がなされ、様々な面での学力の向上に表れているか。 | ＜教職員アンケート8＞ 97% 全国及び県学力調査を分析し、学校全体で学力の検証と授業改善を重ねてきた。新たな授業づくりを基盤として、本校生徒の強みを伸ばし、弱点を強化する学力向上策を継続していく。 | A |
| 3 | 豊かな心の育成(徳) | ①集団の中での自分の役割を果たすことを通して自己肯定感を高められるよう、認め合える温かな学級づくりをめざす。 | ＜満足度指標＞ 生徒指導の三つの機能を意識し、学習集団、生活集団としての機能を高める学級づくりに努めている。 | ＜教職員アンケート10＞ ＜生徒アンケート28＞ Q-Uアンケート結果や生徒面談を活かし、親和的な学級づくりに努めているか。生徒の自己肯定感が高まっているか。 | ＜教職員アンケート10＞ 96% ＜生徒アンケート28＞ 96% 今年度もH-QUと個人面談を中心に生徒理解を深めていた。今年度は1学期に各種大会や運動会があり、達成感や成就感を味わうことができた生徒が多かった。引き続き親和的な学級づくりに取り組む。 | A |
| | | ②生徒会活動やボランティア活動を通して自治・自浄の能力を高めるとともに、他のために役立つ自己を実感させる。 | ＜満足度指標＞ 生徒会活動やボランティア活動に積極的に取り組み、開発的生徒指導を行っている。 | ＜生徒アンケート25＞ 生徒会活動やボランティア活動が活発で、自己有用感が高まっているか。 | ＜生徒アンケート25＞ 31% ボランティア活動を初め、様々な地域行事が行われなかったために、参加の機会が減っていた。「今年度は中止されているものが多いができるだけ参加したい。(39%)」という回答から、現状でも主体的に取り組める活動を提案していく。 | D |
| 4 | 健やかな心身の育成(体) | ①生徒の不安や悩みを迅速に把握し、解消できるように相談体制や居場所を充実させ、困り感のある生徒には個に応じた配慮を工夫する。 | ＜満足度指標＞ 教育相談体制を充実させ、生徒の実態を把握・共有し、問題の解消に努めている。 | ＜保護者アンケート5＞ 学校は、不安を持っている生徒や困っている生徒の実態を把握し、問題の解消に努めているか。 | ＜保護者アンケート5＞ 79% 相談室の整備や不登校傾向の生徒への働きかけなど、取り組みは十分にできており、登校できるようになった生徒も増えた。保護者の協力と理解を得ながら外部機関との連携をさらに強化していく。 | C |
| | | ②家庭と連携してインターネットのルールを徹底するとともに、起きる時間、寝る時間、学習時間を確保するなど望ましい生活習慣の確立を図る。 | ＜満足度指標＞ 家庭と学校の連携力が高まり、家庭のネットのルールが守られ、良い成果が出てきている。 | ＜保護者アンケート8,9＞ ネットトラブルやネット依存防止のために、フィルタリングやルール作りを行っているか。 ＜生徒アンケート22＞ 時間の3点確保を行い、望ましい生活習慣が確立できたか。 | ＜保護者アンケート8＞ 84% ＜保護者アンケート9＞ 79% ＜生徒アンケート22＞ 73% 時間の3点確保(起床・勉強・就寝)と時間の使い方、大きな要因である情報通信端末の使用意識について検討していく。生徒会を中心にルール作りを進めていく。 | C |
| | | ③体育的活動・部活動を中心に、仲間と協力しながら、体力を高めるとともに、自分で設定した目標に向かって努力する。 | ＜成果指標＞ 体育的活動・部活動を通じ、親和的な人間関係を育みながら体力を向上させ、自分なりに設定した目標に向かって努力している。 | ＜教職員アンケート11＞ 生徒が目標達成に向けて努力しようとする姿は向上しているか。 | ＜教職員アンケート11＞ 93% 前年度12月より10ptアップした。コロナ禍で制限される中、生徒が満足し達成感や成果が得られるように教師個々が思考・工夫し、その教職員集団が管理職を中心に共通の目標・目的を持ち、組織的に協力して取り組んでいる。 | A |
| 5 | 家庭や地域との連携 | ①地域の特色を積極的に学習に活かす中で地域の未来や、社会貢献、自分の生き方を考える等、教育活動の更なる充実を図る。 | ＜努力指標＞ 地域のヒト・モノ・コトを活用し、地域や自分の在り方を考え、社会貢献できる生徒づくりに努めている。 | ＜教職員アンケート13＞ 教科横断的な視点を持ち、地域リソースを生かした教育活動が行えたか。 ＜生徒アンケート13＞ 地域とのつながりや考え、地域の方々や先生から学ぶことができたか。 | ＜教職員アンケート13＞ 89% ＜生徒アンケート13＞ 96% コロナ禍で制限がある中、総合的な学習の時間を中心に、能美市や辰口地区について考える機会を設けた。今後も「課題研究」として地域リソースを生かした教育活動を推進する。 | B |
| | | ②学校運営協議会を設置し、学校・家庭・地域の協力体制を構築し、よりよい学校づくりを推進する。 | ＜満足度指標＞ 学校と家庭、地域の連携力が高まり、良い成果が出てきている。 | ＜保護者アンケート10＞ 学校と家庭、地域が連携して子どもを育てていると感じているか。 | ＜保護者アンケート10＞ 78% 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、保護者が学校に来る機会がここ2年は激減している。ホームページや各種たより等で学校の様子を知らせる活動を続け、地域を含めた3者の協力体制をさらに図る。 | C |

◆【評価の根拠】は生徒・保護者・教職員アンケートによって、＜肯定的な意見がA：90%、B：80%、C：70%、D：70%未として評価する。＞

◆評価は＜1：そう思う、2：どちらかと言えばそう思う、3：どちらかと言えばそう思わない、4：そう思わない＞の4つで選択する

◆各項目で評価をする際に、2つ以上のアンケートを必要とする場合は、上記の意見で低い方の結果を評価する。